

社会科学部学生論文集発刊に寄せて

社会科学総合学術院長 山 田 満

昨年度の社会科学部設立 50 周年を終え、2017 年度は社会科学部の新たなスタートの年になりました。今年度も優秀論文が掲載されることになり、研究指導に当たられた指導教員の各位には心より御礼を申し上げます。

社会科学部はご存知の通り、学際性、臨床性、国際性を学部の柱に据え、教職員が一体となって学生の皆さんとともに社会学を盛り上げています。これら三つの柱は複雑化した現代国際社会が直面する諸問題の解決に必要な「社会的構想力」を培うものだからです。今回掲載される研究論文も社会科学部の三つの柱を基本とする内容が含まれていると思います。

さて、昨年度のノーベル平和賞は ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）という NGO に授与されました。広島・長崎、さらには 3・11 後の福島を経験している私たち日本人には強く国際平和に向けたリーダーシップが求められています。朝鮮民主主義共和国の核の脅威に目を背けることなく、しかし他方で軍事力に依存する解決には未来がないのも事実です。年末にローマ法王フランシスコが長崎原爆の被害者、幼くして死んだ弟を背負っている「焼き場に立つ少年」の写真をカードに印刷し、配布するように指示しました。結局、無辜の人々の日常生活を奪うのが戦争であるからです。

さて、本社会科学部学生論文集にはどのような研究論文が掲載されているのか楽しみです。学際性が特長である本学部ですから、さまざまなディシプリンを縦横に駆使した内容の論文が掲載されているに違いないでしょう。選ばれた執筆者の皆さんは、活字になった自らの研究論文を前に、改善点を見つけ、その完成度に不安を持つかもしれません。しかし、本論文は皆さんの「中間報告」です。いずれはまた完成度や満足度の高い論文を書き上げてください。

最後に、学生論文集に投稿してくれた学生諸君、丁寧にご指導して下さった教員、本論文集の編集を担当して下さった教職員の皆様に御礼を申し上げます。